

●ヤマトサンショウウオの生息ワンドの水路整備と土砂流出止め堰設置作業実施

今年は大雨が見られませんでしたでしたが、短時間に集中する降り方が幾度もありました。これまで通りの静かでおとなしい降り方だったら水が静かに流れていたのですが、短時間に集中する降り方になれば土砂を押し流していくことになり、これまでの水路では排水量が大量になってしまうことで土砂流出の防止の堰をしっかりとさせなければならなくなりました。里山の会では土砂流出で下流の農地に大きな迷惑事故が発生いたしましたので、注意を払って再発防止のため私たちで製作可能な土砂溜めの堰を追加いたしました。(太田さん、森島さん、金田さんが実施)



●2024 年の竹蛇籠製作講習会の 2 日目の目標の 4 本の製作が完成 6m ものへの継ぎ足し用蛇籠 4 本が出来上がる

午前中の進捗状況からみて継ぎ足し部分が残るのではないかとこのようすでした。午後からは予定があって帰宅されるなどして人数が減少した中での作業になりました。それでも今日の目標をやり上げるとの気持ちを振り絞って遅くまで作業を続けていただきました。1本の竹蛇籠に13本の縦骨の継ぎ足しが大変で合計26個の取り付け縛り作業に手間がかかるのです。継ぎ足しができる胴まきを付け加えて扱いにくくなっている縦骨を相手に胴巻きを編み上げるのはグループの息が合うこととともに相当力が必要です。この大仕事をやり切ろうと頑張りましたが、秋の日暮れはつるべ落としなので、終了時間を気にしながらの作業はきついものでした。想像を超える大仕事をやり切っていただきました。これで完成したものをドッキングさせたら6本の蛇籠が8割が出来るところまでやり遂げていただきました。みなさんの大奮闘に感謝いたします。本当にご苦労様でした。

設置場所を確定して2025年2月8・9日に栗石の投入をやりきると仕上がりになります。9日を予備日として予定していますが多くの皆様のご参加をお願いして予備日を使わないで一日(8日)で完成竣工させるために皆さん参加を呼びかけていただきますようお願いいたします。

国交省淀川河川事務所の意向として中聖牛の設置について、7mの主柱が流出しない流れ橋方式が可能ならば中聖牛の設置が可能の意向を持っているように聞き及んでいます。こうした意向を活かして古来河川工法の技術継承が継続できる動きがみられるようです。

●竹蛇籠製作カルバートにかかれていた壁画がきれいに塗り替えられて大変気持ちの良いものになっていました。ここは京都府が管理しているものです。



●フィランソロピー協会からサンライズ財団環境助成金の応募の紹介があって、11月23日に約100万円弱の申請書を提出いたしました。

課題として高齢化による放棄林や中山間地の増大があり希少生物回復が見られて里山の会のささやかな活動によって維持調査活動で社会に広報されているとして、①植樹活動②希少生物の保全作業③昆虫観察会等への経費助成約100万円弱を申請しました。申請にはWEBでのデータ送信が必要で、小川様の助力によって無事提出ができました。また振り返ってみれば不十分なところがあったところで見つかり、これでは通らないだろう、徒労に終わってしまう可能性が強いのではないかと思っています。もう少し冷静に時間をかけて準備することが必要と思っています。万が一承認された時には皆様のご協力をお願いします。申請へのご協力大変有難うございました。

●いよいよ12月も3日後になりました。12月1日(日)には尾根筋ハイキングコース3.7kmおおよそ3時間の年末清掃が予定されています。

このコース設定にあたって、見どころを田辺高校の地質の先生や元国交省の職員さんや植物学者に加えて、故郷の地域有識者の皆さんの力をお借りして探しました。その結果、コース内には京田辺市の最高峰の千鉾山311mがあること、三角点が三つ存在すること、平地ではあまり見かけられないヤダケ(矢竹)やウラシマソウなどが見つかりました。また京都府には5つの三国境があってその一つがこのコース中に存在していることもあきらかになりました。里山の会が結成されて天王から高船、打田まで藪漕ぎをして100mのロープで距離とコースを測定しました。打田薪炭組合の協力があってコースの草刈りをしていただきました。そして地主を一軒一軒訪ねて(大阪府八尾市や東大阪市、奈良県生駒市)、コースのすばらしさをお伝えして1m幅の歩行コース作成の協力をお願いに回りました。このコースを作るにあたって徳川家康の伊賀越えルートがここであつたのではないかと考えたのではありませんか。飯岡に穴山梅雪の墓標が存在していますので、このコースから木津川高水敷の貴重なカワラサイコ原を通って渡ったのではないかと思います。このハイキングコース設定にあたって歴史の大切な一場面を考えさせてくれました。このコース設定には発足間もない里山の会でしたが、助成金申請をセブンイレブンにしたところ50万円が届きましたので普賢寺川の最上流に竹炭で水質浄化装置を設置して、ハイキングコースの距離表示を設定できました。コースが完成したのは2005年です。



溝掘り作業



溝が元通りになりました！



大根もすくすく成長中

●11月23日(土) 里山農園にて

朝から風の強い一日でした。草刈りをしたままになっていた4号地・5号地で集草作業を実施したところ、至る所に獣の足跡を確認することができました。草刈りをしたことによって、獣にとっては動きやすくなったようです。里山農園と隣地の間には高さ1m程度の金網を張り巡らせていますが、確認したところ侵入できるような穴はありませんでした。農園内に棲息していれば分かりそうですが、悩ましいもので

す。例えば、コーヒーのドリップしたあとの出がらしをフェンス沿いに巻くことで獣対策に効果は期待できるものなのでしょうか？

また、集草作業をしたことで溝に土砂等が溜まっていて排水効果が減少していることが分かったため、溝掘り作業を行いました。かなりの体力仕事ですが1日で完成させようとせず、こつこつと進めて完了させたいと思い

農園部会だより
溝(水路)の維持管理



ます。同志社大学の学生さんが植えてくれた大根も大きくなってきました。収穫までもう少し大きくなってくれることを期待したいものです。

●自然環境保全京都ネットワークと京都生物多様性センター職員との今年3回目の懇談会が11月22日に中京市役所で開催されました。

自然環境保全京都ネットワークが結成されて約10年が経過して近畿地方の博物館（滋賀・大阪・兵庫・静岡・三重）を見学し、それぞれ実現までの取組への経過とその後の活動の在り方を学んできました。京都ではどうだろうかと議論を展開しています。11月30日には岡山県の自然史博物館の視察を実行します。約20人が参加予定で詳細の打ち合わせが行われました。続いて第2回



いきものフェスの振り返りが報告され、前会に倍する参加者があり出展団体も2倍の数に増えた事、北部からの参加もあってほしい、そして北部での開催が必要で京都市での開催参加のための交通費負担が大きいなどの問題点が出されました。里山の会からは久御山町から松かさツリー作りの協力要請があったことを報告しました。

●里山里海つながるフェス イオンモール高の原 初めての活動発表展示会 12月8日（日）

この展示会は呼びかけをいただいて良いチャンスをいただきました。木津川を中心にした地域で里山の会の活動紹介として願った企画として参加を決定いたしました。山城の中心を流れる木津川などを活動場所としてきた内容をぜひご理解ください。

●アライグマの学習会 プログラム決まる 12月12日（木）に開催

農家の多くの所でアライグマの被害が多く発生しているとお聞きします。私たち里山の会ではアライグマがヤマトサンショウウオの生育池付近で捕獲機を設置し3匹捕獲しましたが、その後も昼間に集団で撮影されるなどしました。今回京都府から生態を学ぶ会を実施の呼びかけがあり、下記の要領で学習会を無料開催致しますので、ぜひ多くの皆様のご参加を呼び掛けいたします。



1. 現地視察（11:00） アライグマ捕獲の効果的な檻の設置、生態について

場所：里山農園 京田辺市水取

2. 講演会・質疑応答（13:30～15:00） 場所：京田辺市北部住民センター

(1)アライグマの生態と在来種への影響

栗山 武夫氏（兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授/兵庫県森林動物研究センター主任研究員）

先生はイノシシなどにも詳しい哺乳類の研究家でもおられます

(2)アライグマ捕獲に関する法令について

●冬の昆虫観察会にご参加ください。 12月14日（日）10:00～12:30

里山の会が発足以来、国蝶オオムラサキの発見を確認するためには冬の幼虫観察が大切で、エノキ林がある里山農園付近で調査観察を桜谷保之先生の指導を得て継続してきました。今年も下記の要領で開催をいたします。昆虫好きの子どもたちのご参加を期待しています。気楽にご参集ください。

集合地： 京田辺市普賢寺小学校前 9:45 集合後、里山農園へ（駐車場あります）

講師： 桜谷保之先生 前近畿大学農学部教授

助手： 里山の会 昆虫世話役 金田徹、野村治（元小学校教師）

参加費： 無料

参加資格： 小学生は保護者同伴 受付 20 組

申込方法： 氏名、住所、電話番号、交通手段を明記の上メールにて fddb257@yahoo.co.jp

服装： しっかりした靴、帽子、手袋、長袖上着ズボン、筆記具、あればカメラ等



●第5回イタセンパラの復元を目指すシンポジウム 12月14日（日）13:30～16:00

木津川は淀川水系で一番最後まで天然記念物のイタセンパラが自然のなかで生息していた環境が残されています。それを生かして復元できないかとして里山の会が活動を始めてきました。そしてその取組結果を公表してこれまで4年間開催してきました。前回に里山の会が取り組んでいる活動も併せて報告すべきとの助言をいただきオオムラサキやヤマトサンショウウオなどについてもささやかな報告が出来れば、関心者への参考になればと思って開催いたしますので、気楽にご参加いただければ有難いと思っています。

場所： 京田辺市大住 京田辺市立 北部住民センター（大住中学校隣）

出席講師（予定）： 竹門康弘（大阪公立大学特任研究員） 光田重幸（前同志社大学准教授）

綾 史郎（前大阪工業大学教授）

石田裕子（摂南大学教授）

河合典彦（前大阪府中学校教諭）

小川力也（前大阪富田林高校教諭）

参加費： 無料 当日飛び込み参加可

参加希望者は 氏名、住所、年齢をメールにてご連絡下さい。(fddb257@yahoo.co.jp)

※駐車場に限りがあります

●ナンキンハゼ収集の呼びかけが京都新聞に掲載されました。

京都新聞 2024 年 11 月 23 日掲載



ナンキンハゼの木の枝先についた白い実
(京田辺市内)

ナンキンハゼ集め協力を
京田辺のNPO子のXマス飾り作り
里山保全に取り組む
京田辺市のNPO法人
「やましろ里山の会」
が、子どもたちが自然
に親しむワークショップ
のため、材料集めへ
の協力を呼びかけてい
る。
同会は20年以上にわ
たり、環境保全を担う

人材を育てようと里山
で遊ぶ楽しさを伝える
企画を催してきた。例
年秋に松ぼっくりなど
を使ったクリスマス飾
り作りを行っている
が、会員の高齢化で材
料集めが難しくなっ
てきた。保管していた材
料も少なくなり協力を
呼びかけることにし
た。
集めているのは京田
辺市のもで、庭木など
に用いられるナンキン
ハゼの白い実。山村武
正事務局長(84)は「子
ども時代に自然で遊ぶ
楽しさを知って、里山
の環境を考えられる大
人になってほしい。剪
定の際に実のついた枝
を捨てずに届けてもら
えたら」と話す。問い
合わせは同会0774
(64) 4183。
(野坂真輝)